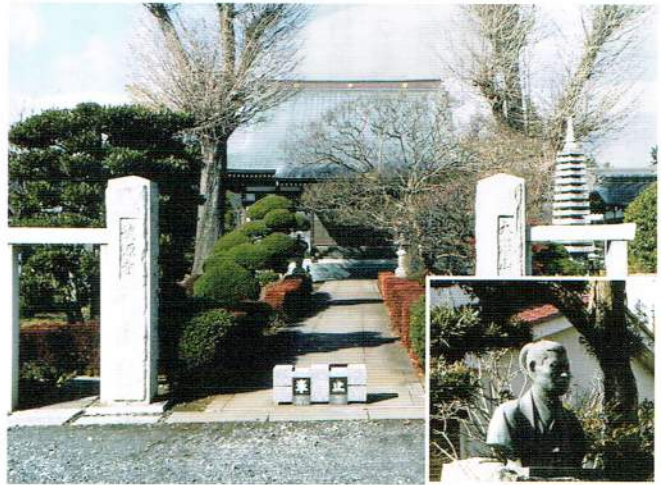


平成26年度 第2号



龍源寺 (三鷹市大沢)

曹洞宗大澤山龍源寺は、新撰組局長近藤勇の生家宮川家の菩提寺である。

門前には近藤勇の胸像と天然理心流の石碑が建っている。

このお寺の住職は、三鷹分区の保護司 菊地一雄氏です。

目次

道標…… (1)

初春研修・新年会…… (2)

第七ブロック保護司組織運営協議会…… (2)

東京更生保護事業関係者顕彰式…… (3)

社会参加活動・社明…… (4)

BBS活動 神奈川医療少年院を見学して…… (5)

薬物事犯捜査の実際…… (5)

ぶんとトビックス…… (6)

第二期地域別定例研修…… (7)

第三期地域別定例研修…… (7)

「エリザベス・サンダース・ホーム」を訪問して…… (7)

桐友会だより…… (7)

わが街のキャラクター…… (8)

退任保護司紹介・新任保護司紹介…… (8)

編集後記…… (8)

北多摩東地区保護司会の皆様におかれましては、日頃から、社会正義実現のため、更生保護の担い手として、また、犯罪被害防止のリーダー的存在として活躍いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、警視庁では平成15年から、「犯罪抑止総合対策」を強力に推進し、昨年までに12年連続減少を達成することができました。これもひとえに保護司会はじめ地域住民の皆様のおかげと、深く感謝申し上げます。しかしながら近年少年犯罪を含め、犯罪自体の傾向が大きく変わり、それに伴い、彼らの更生や社会復帰についても前例踏襲の考え方では立ち行かなくなっているのが現状であります。近年の犯罪にみられるように、私利私欲を満たすためには手段を選ばず、インターネットの掲示板で知り合った見知らぬ者同士が、何の落ち度もない被害者を殺害するなど、人の命を軽視した極めて残忍な事件を引き起こしております。戦闘ゲームやスマートフォン等の普及により、人の痛みを知ることができない人が増加して

因ではないかと思いい、

道標

武蔵野警察署長

黒田 浄

の社会参加活動ははじめ、再

ます。今後ますますに連携を強化し、少年

犯罪防止のための各種取り組みを推進し、安全・安心なまちづくりのため、ともに手を携えてまいりましょう。

一言で犯罪者と言いましても、その動機やきっかけは様々であり、よって更生プログラムを進めるにあたり、定められたマニュアルだけでは決して良い結果は得られないのであります。一人ひとりの生い立ちや、生活環境などを理解した上で地道に取り組まなくてはなりません。好転しては後戻りという繰返しにより遅々として先が見えなくなることもあるでしょう。しかし、頑なに心を閉ざしている彼らも心底では「助けて欲しい」という言葉を発しているはずで

平成27年

初春研修・新年会

去る1月16日、南元英夫東京保護観察所立川支部長を講師に招き、恒例の北多摩東地区保護司会の初春研修並びに新年会が開催されました。講演の最初は、高等検察庁を退職し、現在、保護司として活躍されている方の体験談や思いを紹介してくれました。

立派に更生した青年がお礼に訪ねてきてくれたエピソードや保護司活動を通じ、社会に役立つという充実感などの思いを聞くと、改めて保護司の果たす役割を確認させられました。そして、南元支部長からは、保護司活動のすばらしさを広く地域に浸透してほしいと訴えられました。続いて来年6月から実施される「刑の一部の執行猶予制度」について、計数やグラフを用いて制度導入に至った背景（仮釈放と満期釈放がほぼ同数である、仮釈放の方が再犯率が低い等の実態）、今後の課題（社会の受け皿をできるだけ確保すること等）を説明されながら制度の概要を解説していただき、質

疑応答もあり、実のある講演会でした。



二部の新年会では、構成4市の市長並びに市議会議長、更生保護女性会会長、桐友会の皆さん、BS会会長他の来賓をお迎えし、総数84名の参加を得、盛大に行われました。毎年、当該年度に表彰された会員に北多摩東地区保護司会から記念品が贈られます。今回は22名の方が対象になりました。懇親会では、和気あいあいとした雰囲気の中、豪華景品が当たるお楽しみ抽選会があり、さらに盛り上がり一層親睦が図られました。

(国分寺総務部 峯岸 桂一)

第7ブロック

保護司組織運営協議会

今年度は北多摩西地区が当番で10月20日、立川グランドホテルにて開催されました。

昨年を引き続き「保護司の安定的確保」を協議題としました。

昨年の結果については、保護司現員数が3485名となり、充足率も現在79・7%と上昇に転じておりますが、今後10年間で現在保護司である者のうち約40%が任期満了を迎えることとなり、今後も保護司適任者を確保していかなければ、更生保護制度の基盤の弱体化、再犯防止のための地域力の低下を引き起こすことになりかねません。

このような状況の中、確保について各地区議論を深めました。

当地区でも分区的特徴によってさまざまな活動を展開しており、検討協議会を立ち上げ、この会を通じて候補者を発掘する。また、農協、P連、社会福祉士会から確保に繋がる良い反応を得ている。また、地域で活動されている方やその参加者にも折にふれて声をかけ、様々なアプローチをしている。

結果的には保護司一人ひとりが目覚まして適任者を探すことが重要であり、保護司になったお陰で人間的にも社会的にも魅力的な人たちと知り合え、大きな財産となった。

このようなプラス面をもっとアピールすることも大切なことである。
(三鷹副分区長 片野 理代)



東京更生保護事業関係者顕彰式

平成26年度の東京更生保護事業関係者顕彰式が11月26日かつしかシンフォニーヒルズで開催され、北多摩東地区保護司会の関係者54名と1団体が、更生保護事業の進展に寄与された功績を顕彰されました。(敬称略)

叙勲(春)瑞宝双光章

當麻 光(小金井)

法務大臣賞

須藤 正敏(三鷹)
砂崎 國男(武蔵野)
吉野 恵夫(武蔵野)

法務大臣感謝状

北多摩東 BBS会
浅野 光男(三鷹)

全国保護司連盟理事長表彰

大久保 喜代子(小金井)
石井 功八(三鷹)

日本更生保護女性連盟会長表彰

中館 文子(三鷹)

関東地方更生保護委員会委員長表彰

五十嵐 京子(小金井)
薄田 有鄰(三鷹)
岡田 英一(三鷹)

音田 大樹(三鷹)
小山 茂(小金井)
指田 昌雄(三鷹)
清水 勉(小金井)
須崎 英夫(国分寺)
真壁 敦子(三鷹)
三橋 優子(三鷹)
山崎 祐子(武蔵野)
渡邊 卓利(小金井)

関東地方更生保護委員会委員長感謝状

塚本 フミ(小金井)
山田 淑子(武蔵野)

関東地方保護司連盟会長表彰

井上 智順(小金井)
須藤 利一(三鷹)
千本木 勘博(小金井)
長谷部 豊子(国分寺)

関東地方更生保護女性連盟会長表彰

鈴木 汎子(国分寺)

東京保護観察所長表彰

阿部 勉(三鷹)
大澤 正男(小金井)
小野山 達久(武蔵野)
菊地 一雄(三鷹)
佐藤 美由紀(小金井)

正田 道子(三鷹)
田中 博(国分寺)
松友 了(国分寺)
峯岸 桂一(国分寺)
村雲 祐一(武蔵野)
和地 誠一(国分寺)

東京保護観察所長感謝状

小山 邦子(小金井)

更生保護女性会

池谷 敏子(国分寺)
立川 八重子(武蔵野)

東京都保護司会連合会会長表彰

池谷 敏子(国分寺)
宇田川 正浩(三鷹)
大久保 良子(武蔵野)
大野 寿美子(三鷹)
小川 和男(小金井)
笠岡 展子(三鷹)
川畑 青史(小金井)
齋藤 武(小金井)
田中 久美子(国分寺)
戸倉 央江(国分寺)
前田 秀樹(武蔵野)

東京更生保護女性連盟会長表彰

遠藤 百合子(小金井)
笠石 ふさ子(三鷹)

三鷹分区

社会参加活動

9月28日秋晴れの三鷹市農業公園において社会参加活動（公園清掃）が行われました。参加者約20名の協力のもと、公園はたちまちきれいになりました。女性保護司の作った美味しいカレーをいただいた後、対象者の感想の中で、「公園を綺麗にすることは、自分にとっても気持ち綺麗になる」との一言があり、社会参加活動の大切さを感じました。



（三鷹分区 須藤 利一）

小金井分区

「小金井なかよし市民まつり」における広報活動について

天候に恵まれた10月18日・19日の両日、小金井公園において「第42回小金井なかよし市民まつり」が八万五千人の市民他が参加するなか、開催されました。

小金井分区では「保護司会小金井分区」コーナーを設け、矯正作業製品の椅子やうどん・石鹸などの展示販売を行い、販売収益金の一部は、更生保護法人へ寄付させていただきます。

また、このイベントに合わせて、薬物乱用防止啓発活動が行われ、保護司や中学生ボランティアにより、啓発グッズの配布や薬物乱用防止に関するアンケートを実施しました。



（小金井分区 小川 和男）

国分寺分区

ひまわりコンサート

10月4日に小学校3校と北多摩東BBS会、小金井警察署が参加をして「吹奏楽ひまわりコンサート」を開催しました（来場者300名）。

「小学生なのにこの力量、かわいい表情。素敵な演奏会に感動、感激。社会が明るくなりそうです。」というような感想や、北多摩東BBS会の発表、警視庁のDVDも「わかりやすかった」、「考えるきっかけになった」という感想を沢山いただき、多くの方に「社明」を伝えることができました。



（国分寺分区 田中 博）

武蔵野分区

青空市

11月9日に武蔵野市の主催で、市役所前の広場で「青空市」が開催されました。各地の名産品、特産品の販売やステージでのアトラクションに毎年3万人もの人が訪れる大きなイベントです。

私たち武蔵野分区保護司会では、全国の刑務所で作った製品を毎年販売しておりますが、今年も「ステイック石鹸」、「乾うどん」を中心に20人の保護司のメンバーで販売し、雨の降った条件にもかかわらず午前中には予定数販売いたしました。

このイベントを通して、我々の活動が少しでも認知され、受刑者の更生保護につながればと思います。



（武蔵野分区 前田 秀樹）

BBS活動
**神奈川医療少年院を
見学して**

今回、神奈川医療少年院を見学し、開放的な雰囲気少年院だったという感想を持ちました。地域に対してや、建物の構造、少年達の間でのコミュニケーション等あらゆる場面でそう感じました。特に先生方の一人ひとりの少年と向き合い、それぞれの個性に応じて指導、治療していかうとする姿勢には、少年に対する温かな眼差しを感じました。

一方、普通の少年院では、規律重視のところが多いと思われることから、様々な事情を抱える少年達にとって、指導が表層的なものとなつてはいないかと感じました。今後、またこのような機会があれば、是非比較し考えてみたいと思います。

また、今回の見学をきっかけとし、発達障害と非行の関連について意識するようになりました。少年が抱えている障害については、軽度知的障害が最も多いとのことでしたが、これらの問題があるか

らと言つて必ず非行に結びつく訳ではありません。障害に対する周囲の無知が障害を抱えた子ども達を傷付け、彼らの自己肯定感を低下させることにより、さらなる問題行動へとつながっていくのです。そして居場所を失つてしまった結果が非行へとつながっていくのだと思います。早い段階で家庭や学校での協力的な教育がされていけば少しは回避できるのかも知れないとも思いますが、なかなか様々な理由があつて難しいのだからとも感じます。

今回の見学を通し、一BBS会員として自分に出来ることは何かと考え直す良いきっかけとなりました。
(北多摩東BBS会長 木下 芽)



薬物事犯捜査の実際

(関連機関との連携活動)

去る9月18日(木)午後2時より武蔵野芸能劇場小ホールにて、北多摩東地区地域活動部主催で「薬物事犯捜査の実際」という演題で警視庁組織犯罪対策部組織犯罪対策第5課より長沼繁雄氏を迎え講演を行いました。

当日は、来賓として東京保護観察所立川支部支部長南元英夫氏、北多摩東地区保護司会会長須崎英夫氏にご出席頂き、保護司を始め関係機関からも約70名参加いたしました。長沼氏はバリバリの現場上りの方で、有名人や殆どの職業(同業者を含め)の人達の薬物捜査を行つてきて、皆、同じ人間なんだなと感じたそうです。

ソフトドラッグ(大麻やハーブ)、ハードドラッグ(覚せい剤)と区分けがあり、興味本位やストレス解消のきっかけで始めたソフトドラッグでさえ十年間やり続けられ、覚せい剤と同じように必ず幻覚を見るようになるそうです。その陰には必ず性的な欲求を満た

すために服用するという現実があり、男性同士の同性愛者には多く、女性同士は少ないようです。

現在受刑者のうち男性が約4分の1、女性は約3分の1が薬物の服役だそうで、再犯率も多く更生するのも非常に難しいらしいです。国内での製造は無く、全てが海外から入つて来てしまう物で、最近危険ドラッグでの犯罪や事故が非常に増えている中、薬物の講演は私達にとつて、とても興味深く有意義な講演でした。

(三鷹分区分 宇田川正浩)



ぶんくつピックス

武蔵野分区



立川拘置所を視察

12月2日(火)に、立川拘置所と東京保護観察所立川支部視察を実施しました。

立川拘置所では、VTR視聴後に居室、食堂、運動場、面会室、診察室等を見学、通路が複雑で方向が分かり難い造りでした。全てが清潔且きれいで、拘置所とは思えません。平成21年に開設された緑地設置や敷地の一部を公園として開放するなど、周辺地域との調和を配慮したIT技術による最新の警備システムが導入されている都市型拘置所です。収容人数は1,000名、現在500名弱、内女性100名程が収容されています。高齢の収容者が多く、医療費が高んでいるとのこと。

東京保護観察所立川支部では、南元支部長による、保護観察の対象となる人々の動向として、少年及び高齢者に関して、また、更生保護の今後の課題として、高齢

者・障害者に対する処遇、薬物事犯者に対する処遇、刑の一部の執行猶予制度の開始についてのお話を伺い、施設を見学しました。

(飯村 雅洋)

国分寺分区



「薬物処遇」についての研修会

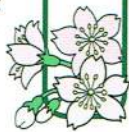
12月9日(火)午後3時30分から1時間、東京保護観察所立川支部の石井法子・統括監察官を講師に『薬物処遇について』のテーマで研修が行われました。話の中心は、「刑の一部執行猶予制度」に関するもので、あの複雑な制度の全体像や実際の運用について、具体的な例をお示しいただきながら、丁寧にご説明いただきました。

薬物事犯者の更生支援は、とても難しいものがあります。それは、使用者の心理・社会的背景が複雑であり、多様だからです。それゆえに、この新しい取組みはその成果が期待されるところですが、保護司はもちろん、更生保護

全体にとって難しい課題といえます。しかし開始は決定しています。困難にたじろぐような段階ではありません。遅まきながら、覚悟と学習が必要です。

薬物事犯は、覚せい剤を中心に増加の一途をたどっています。最近「危険ドラッグ」なども出回っています。他の依存症とともに、まずは予防対策が必要ですが、事犯者の更生はその意味でもきわめて重要です。新しい制度の理解と共に、問題の大きさを学び合った研修でした。(松友 了)

小金井分区



神奈川医療少年院を訪ねて

暮れの12月9日(火)、標記の施設(あじさい寮)を見学しました。この施設は知的障害や発達障害等社会に適応出来ない少年たちを収容し、心理療法などにより矯正教育を施す施設です。

少年たちの中には、歯を磨いたことがない、トイレでの始末が得意でない、人との接し方がわからない、など基本的な生活習慣が身につけていない、善悪の区別もつ

かないまま事件を起こしてしまっただ子もいます。

そういう少年たちを限られた期間で、本来なら家庭でしておくべきことを一から手取り足取り指導される先生方の苦勞は並大抵ではないことがうかがわれました。

丁度、陶芸実習中の少年たちと間近かに接することができましたが、声をかけるとちよつとはにかんだ、しかし落ち着いた返事が返ってきて、本来の純粋さを取り戻しつつあるのだなあ、と感じました。

また施設も開放的で、屋外の小道(通路)一つにも工夫がされており、少年たちを何とか自己の尊厳を保てる人間として社会に返したいという思いが伝わってくる施設でした。(志波 直男)

三鷹分区



横浜刑務所を視察

12月8日(月)、私達は日帰り研修で横浜刑務所を訪れた。

この施設は、法務省矯正局の東京矯正管区に属し、収容定員は約1200人である。現在は80%位であるが、多い時は120%越え

の時もあった。所長の下に4部1室を持つ5部制で成り立っている。分類教育部長の田川康一様は、癒される和風庭園等もあり、きれいな施設という印象を受けた。この施設は、全国でもただ一か所の食品（正麺）を製造し、衛生面でも数々表彰されている。施設内の受刑者は、再犯がほとんどである。そのため、施設内では改善更生や社会復帰の指導に力を入れ専門技法を取り入れ日々努力を重ねている。（笠岡 展子）

第Ⅱ期地域別定例研修

テーマ「秘密の保持」

今年度の第Ⅱ期地域別定例研修は、10月27日に国分寺市本町・南町地域センターで、31日には三鷹市連雀コミュニティセンターで開催され、出席者は合計72名です。今期テーマの「秘密の保持」について、平田和英保護観察官の主任官講義の形で進められました。守秘義務は保護司にとって欠くべからざることですが、必ずしも十分に把握されていません。今回は資料に沿った解説がありました。はじめは、引受人に対する秘密

保持です。家族ではない引受人に罪名や刑期などを尋ねられた時は観察所に相談してから対応しなければなりません。また、出所時期は分からないと断ります。次に、担当している対象者に他の対象者の情報を伝えることは極力避けるべきことです。対象者から他の対象者の話が出る場合はノーコメントにします。保護司としては、地区内の情報交換は必要ですが、他地区の情報は観察所を通す必要があります。保護司の家族には、最小限の情報を知らせません。また、地域との連携では、守秘義務のない人に注意を払わなければなりません。不明な場合は観察所に相談しましょう。今回も大変有意義な研修でした。



第Ⅲ期地域別定例研修

テーマ「保護観察対象者の転居・旅行」

・2月16日(月)午後2時～4時
 国分寺本町・南町地域センター
 ・2月27日(金)午後2時～4時
 三鷹連雀コミュニティセンター
 (研修部長 孤島 法夫)

「エリザベス・サンダース・ホーム」を訪問して

北多摩東更生保護女性会会長 鈴木 汎子

平成26年11月19日、大磯にあるエリザベス・サンダース・ホーム（児童養護施設）を訪問、参加者40名。施設長に当ホームの設立者澤田美喜さんについて伺いました。第二次世界大戦後に生まれた「混血孤児」たちの不遇な状況を目の当たりにし救済に立ち上がり、昭和23年、乳児院を設立、昭和24年児童養護施設を設立、2千人の子ども達を育て社会に送り出しました。当時のご苦労は筆舌に尽せぬ苦難の道程でした。澤田美喜さんの生涯の話を伺い、参加者の皆が感動し、感銘を受けました。その後、昭和63年に開館された澤田美喜記念館を見学、大磯城山公園旧吉田茂邸庭園をガイドの説明案内で一週した。今後更



桐友会だより 山代 法道

● 東京桐友会の活動

平成26年4月23日、第1回理事会を開催。事業・収支決算報告、役員の変更等。

平成26年6月25日、第2回理事会を開催。「会員の集い」の計画。

平成26年9月10日、第33回「東京桐友会会員の集い」が開催され、北多摩東桐友会から会員3名が参加。

平成27年2月25日、第3回理事会を開催。平成27年度の事業計画、予算(案) 役員の選任等。

● 北多摩東桐友会の活動

本年度も活動は例年どおり主として地区や分区の保護司会が実施する行事への参加でした。

本年度総会時に、保護司会長からの「東京桐友会の会費を個人負担とし、地区会費は無料。運営費は保護司会が助成」の提案について、会員の意見は、賛成多数（23名中16名）であり、11月の保護司会理事会で決定された旨通知がありましたので、来年度から実施したいと思えます。

● 訃報

小金井 土屋一治氏
 (平成26年10月2日没)

年二回発行 昭和四十八年十月一日創刊

平成二十七年三月一日発行



三鷹市「Poki (ポキ)」

生息地は三鷹の森。「ポキポキ」と小枝を折るような泣き声の特徴。2001年10月の「三鷹の森ジブリ美術館」(三鷹市立アニメーション美術館)誕生を記念して、スタジオジブリの宮崎駿監督が描いた三鷹のキャラクターです。

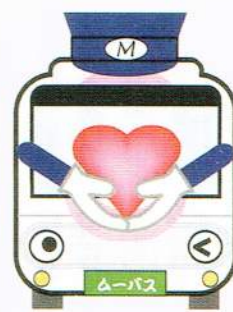
公募によって、萌絵ちゃん(当時4歳)が名付け親になりました。

ポキが「三鷹PR大使」に就任!

武蔵野市「ムーバス」

市内の交通空白、不便地域を解消するため、行政主導の一般乗合のコミュニティバスとして平成7年11月より全国で初めて運行を開始。

現在7路線9ルートを運行し、1日の利用客は7,100人を超えています。



武蔵野市「ムーバス」

わが街のキャラクター

国分寺市「ぶんじほたる ホッチ」



©ホッチプロジェクト

国分寺市イメージキャラクター「ぶんじほたる ホッチ」

「ぶんじほたる」という、国分寺市にしかない新種のホタル。

市の魅力である水・緑・光を象徴するキャラクターです。

デザインはタツノコプロの吉田すずかさん。

誕生日は8月30日、今年で3歳になります。

小金井市「こきんちゃん」

平成20年に市制施行50周年を記念して、名誉市民であるスタジオジブリの宮崎駿監督が制作したキャラクターで、「金」と書かれた「赤い腹掛け」が特徴です。

誕生日は11月1日、市の特別住民票も交付されています。



©Studio Ghibli

小金井市イメージキャラクター「こきんちゃん」



(国分寺分区) 小山 直子氏 平成26年12月22日発令



(国分寺分区) 緑川 道夫氏 平成26年12月22日発令

左記の方が委嘱されました。今後のご活躍を期待致します。

新任保護司

浅野 光男氏 (三鷹分区)

平成26年12月21日 (在職14年)

本木 治子氏 (小金井分区)

平成26年12月21日 (在職24年)

退任保護司

永い間お疲れ様でした。今後とも益々お元気で活躍下さいますよう祈念申し上げます。

編集後記

前号(120号)の退任保護司の敬称「氏」が抜けておりました。お詫びして訂正いたします。



平成26年度第2号(通産第121号)会報をお届けいたしました。回を重ねる毎により良い会報を目指して、紙面作りをまいりました。皆様からのご意見、ご指摘を糧に一層前進してまいりたいと思っております。前号から各市(まち)の特徴を写真と小文で紹介するコーナーを設けております。今回は「キャラクター」です。最近各地でキャラクターを主役にして、町おこし、町の活性化に取り組んでいます。皆様の市でもいろいろな場面で活躍していることでしょう。今号も多くの皆様からご寄稿をいただきありがとうございます。広報部員一同

発行者 編集人

北多摩東地区保護司会 音田大樹 電話〇四二二(四六)八八三三